

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

病院長名	錦見 尚道
453-8511	
所在地	名古屋市中村区道下町3丁目35番地
交通案内	地下鉄東山線「中村日赤」駅下車 市バス・名鉄バス「中村保健センター南」下車

□ 病院の特徴

当院は名古屋市北西部に位置し、一日平均外来患者数約 1,400 名、病床数（許可病床数）852 床、職員数 1,800 名と、この地域の基幹病院の一つです。救命救急センター、小児医療センター、総合周産期母子医療センター、造血細胞移植センター、緩和ケアセンター、化学療法センターを運営するとともに、神経疾患、循環器疾患、消化器疾患、呼吸器疾患などの診療でも専門科の壁を越えた医療を実践するシステムが整備されており、活力にあふれています。どの領域においても潤沢な症例数と多数の剖検症例を有しており、急性疾患から慢性疾患まで稀少疾患を含む豊富でバラエティーに富んだ症例を経験することが可能な病院です。専攻医が思い切り腕を振るうことができるアクティブな研修環境は当院の伝統です。

□ 研修プログラムの特徴

小児科専門研修プログラム

当院の小児科は、愛知県とくに名古屋市の小児医療センターとして位置づけられています。高度な専門医療に対応するため、各専門領域に経験豊富な専門医を有し、1 次から 3 次までの救急患者を受け入れる体制も有しているため、小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応、急性疾患の管理も研修できる施設です。また、当院は造血幹細胞移植推進拠点病院に指定されており、小児領域でも血液・腫瘍患者の総合周産期母子医療センターとして新生児患者の診療が充実しています。さらに名古屋医療圏から海部医療圏にわたる関連施設で、急性疾患の対応と慢性疾患の初期対応も経験可能で、地域の特性と病院の役割に応じて、すべての領域にわたって研修できる体制が整っています。

研修期間は 3 年間。うち当院で 6 ヶ月、連携施設で 3 ヶ月以上研修する必要があります。3 年間を通じて診療技能全般を習得します。また、外来での乳児健康診査、予防接種、フォローアップ外来等を通じて小児保健、成長・発達の研修を行います。その他には、二次三次小児救急病院として救急疾患の対応を担当医として研修し、研修期間中に当院連携の地域医療機関での診療に携わり、地域の診療所や保健行政機関とのカンファレンスや患者の連携を通じて地域総合小児医療の役割について習得する機会もあり、「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づき、一定の専門領域に偏ることなく幅広く研修できるプログラムを準備しています。



□ 主な連携施設

名古屋掖済会病院
国立病院機構名古屋医療センター
名古屋鉄道健康保険組合 名鉄病院
名古屋大学医学部附属病院
あいち小児保健医療総合センター
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

□ メッセージ

プログラム統括責任者（第一小児科部長 大城 誠）

小児科専門医を目指す諸君！我々と一緒にその歩みを始めませんか。わが小児科は、新生児・小児血液腫瘍・小児循環器・小児神経・小児内分泌・アレルギー・小児腎臓・臨床遺伝等、多くの分野の専門医を有し、その人数は 20 名にも及びます。加えて毎年 3～4 名（最大 5 名まで）の小児科専門研修医が、活気をもたらしています。同期の仲間がいるのは、大変心強いですね。診療機会も多く



て、小児病棟や NICU に年間 2000 名以上の入院があります。そこでは手技を会得する機会も多く、気管挿管、血管カニューレション、骨髄穿刺、超音波検査は得意技となり、時には胸腔穿刺も経験できます。休日・夜間も小児科当直医 1 名、NICU 当直医 2 名の計 3 名が常駐しており、いつでも相談できる体制ができています。人数が多いと診療にもゆとりがありますので、病気や出産での休暇にも十分なサポートを受けることができます。その時間的ゆとりを利用して、先輩方も学会発表や論文作成に励むことができています。3 年間の研修が過ぎれば、間違いなく小児科専門医の資格に値するまで成長できるでしょう。見学に来て、実感してみたいはいかがでしょうか。

□ 募集要項

・採用予定人数	5 人
・給与／月額	3 年次：487,370 円
・当直回数／月	3-5 回
・当直料／回	勤務体制に応じて支給
・その他	
・応募連絡先	担当者 教育研修管理課 電話番号 052-481-5111（内線 54145） E メール kensyu-jimukyoku@nagoya-1st.jrc.or.jp